分布：全国

タガラシ　（キンポウゲ科）

学名：Ranunculus sceleratus（ラヌンクルス スケレラツス）

田芥子　別名：コンペートー，ウシゼリ，タゼリ，タネツケバナ

主な生育場所

春耕前の湿田や畦，湿っぽい休耕田，また排水路や絶えず水の流れる用水路，ため池の縁などの水田周辺の陽当たりのよい水辺に生育する。富栄養の環境を好む。街中の水路で見かけることもある。

名前の由来：水田に見られ，噛むと辛みがあるので，「田芥子」との説と，収量の少ない湿田に多いことから「田枯らし」との両説がある。別名のコンペートーは，果実が金平糖を想起させることから。

特　徴

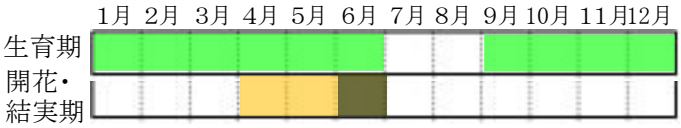
収穫後の水田で芽生え，根出葉で越冬し，翌春に花を咲かす越年生。根出葉は下部の葉は光沢があり，掌状に切れ込むが，茎の上部の葉は3深裂で幅はせまい。茎は中空で柔らかく直立する。葉腋から花茎を伸ばし，光沢のある黄色の5弁花をつける。花後，長楕円形の果実（集合体）が目立ち，個々の種子には短い嘴がある。

＜農業との関係＞

ムギなどの冬作を行わない水田，とくに冬から春にかけて湛水状態となるような湿田では，全面に繁茂し，春耕や代掻きの障害となることがある。かつては，山間部の貧栄養の湿田に多かったが，最近では平野部の富栄養～中栄養の水質下に多くみられるようになった。冬作時にも，水はけの悪い部分に多発することがあり，強害草となる。本田期間中にも残る個体が見られるが，障害とはならない。

花茎を伸ばし始める春先

＜生活史＞　関東 地方の例(目安)



1年あたり　越年1 世代

＜類似種＞関東以西のやや乾いた湿地には，絶滅危惧種のヒキノカサが生えるが，葉に光沢がなく茎に毛が多い。また，タガラシと同様の環境に見られるキツネノボタンも，葉に光沢がなく，集合果は球形で種子の先の嘴（くちばし）は長く曲がる。

根生葉のみのロゼット状態

＜一言うんちく＞

全草にプロトアネモニンというキンポウゲの仲間に共通する有毒物質を含みますが，中国やインドでは，ヘビに咬まれたときの薬として利用されることもあるようです。

＜人との関わり合い＞

有毒成分を含む毒植物で，食べると口内炎や胃腸炎を起こす。また，肌の弱い人では，葉や茎の汁が皮膚に付着するとかぶれを起こすことがある。しかし，インドなどでは，薬用として葉や果実などを利尿や強壮剤に利用する。また，便槽などのウジ虫の退治にも遣われることがあるようだ。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：春】

田芥子や山の窪地に家二軒　（塩崎璨恵）